

# orally

「現代社会のいま」何が問題？」

特集

## ウーラノス

『ΟΥΡΑΝΟΣ (ウーラノス)』は、「天」を意味するギリシャ語です。使徒パウロは、「不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます。なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからです」(ローマの信徒への手紙1章18～19節)と人類の罪を指摘しました。この箇所にも οὐρανός語が用いられています。

特集 NEW WAVE T.G.U.

現代社会のいま～

|            |      |
|------------|------|
| 何が問題？      | — 1  |
| 歴史を伝え、今に導く | — 4  |
| 同窓生を訪ねて    | — 5  |
| 図書館「新資料紹介」 | — 7  |
| 協奏、そして共創へ  | — 8  |
| 学長室より      | — 9  |
| 大学院より      | — 10 |
| 学部より       | — 11 |
| 国際交流部より    | — 13 |
| 研究室・センターより | — 13 |
| 図書館より      | — 14 |
| 入試センターより   | — 14 |
| 就職部より      | — 15 |

Vol. 21

2006

FEBRUARY

 東北学院大学 広報誌  
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

「曙光」。たくさんの講演会や公開講座が本学において開催されています。こうした催しなどを通じて本学がより地域社会に根ざしていくためには、知的創造の拠点、高等教育機関としてさらに多くの地域社会の人々をキャンパスに呼び込み、混迷する現代社会を解き明かし地域社会を再生する糸口をともに考えていくことが大切です。そのことを通じて明るい未来の曙光を展望できるように本学に与えられた使命を着実に果たしていきたいと考えています。

写真:多賀城キャンパス 礼拝堂

特集 現代社会のいま

何が問題？

国債の大量累積、公的年金問題など、現代社会が抱える問題を検証します。  
現在、我が国の財政がどのような局面を迎えているのか、再認識してみてください。

## 国債の大量累積について

経済学部教授 お ち ようぞう  
越智 洋三

図1 国債残高の推移

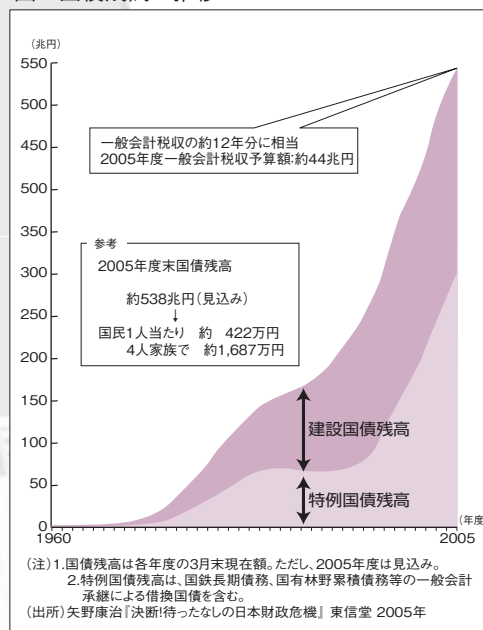
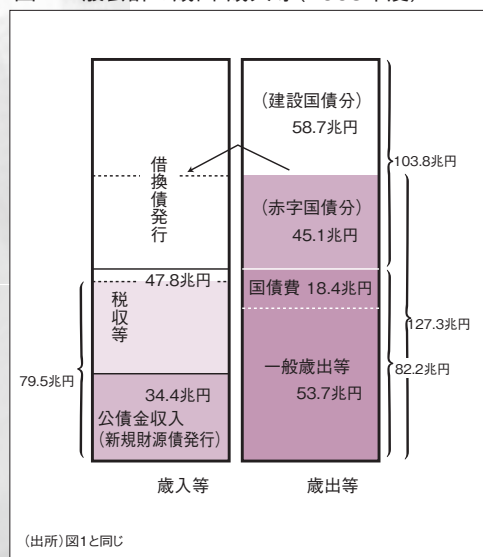


図2 一般会計の歳出・歳入等(2005年度)





## 国民1人当たりの借金に置き換えると

国債が大量に累積していることはすでにご存知と思います。図1をご覧ください。2005年度末の普通国債残高が約538兆円の見込みであることが分かります。これは、国民1人あたり約422万円の借金を負っている計算になります。

## 終わりの見えない借金返済

新聞紙上で来年度の国債発行は30兆円とかの数値が報じられていますが、これは新規に発行される国債で、実はこれをはるかに上回る100兆円を超える国債が別に発行されています。図2をご覧ください。これは借換債と呼ばれており、借金を返済するために発行される国債です。国の財政がサラ金財政と言われるのはこのためです。

## 国債の大量累積で厳しくなる財政運営

国債が大量に累積するといろいろな問題が出てきます。1つは国債費（償還費と利払費）が大きくなり、財政運営が厳しく

なることです。図3を見ると、2005年度の予算の国債費は歳出総額の22.4%を占めています。この国債費は他の活動を行わなくとも第1番目に支出しなければならない歳出で、しかも完全に過去のツケの支払いでしかありません。したがって、残りの78%弱の歳出で必要とされる活動（社会保障や教育等）を行わなければならないので財政運営は非常に厳しくなります。

## 郵貯・金融機関の懐をあてに…

次に、借換債を含めて160兆円を超える国債（財投債を含む）を誰に買ってもらうかが大きな問題になります。図4を見ると国債の保有者状況が分かります。郵便局でも国債を買えるようになりましたが、個人所有の国債は微々たるものです。政府保有の内訳を見ると、郵便貯金と簡易保険の割合が24.6%ですから、郵政が民営化されても今後も郵便貯金から大量の国債を買ってもらわなければ財務省は困ります。銀行を中心とした民間金融機関だけではなく、中央銀行である日本銀行も

大量の国債を保有しています。このような所有のあり方は当分続くでしょう。

## 財政再建の背景にある問題

景気の回復は税収が増えて財務省にとっても喜ばしいことですが、一概に喜んでおられません。景気回復は一般的に金利の上昇をもたらし、利払費が増えるからです。この面から財政運営は厳しくなります。また、金利の上昇に伴って生じる国債価格の下落は、国債を保有している金融機関に損失（キャピタルロス）が発生する可能性があります。1990年代に起こった金融危機が再び起こる可能性も否定できません。さらに、そのことは日銀のバランスシートを劣化させ、日本銀行に対する対外評価を低めることになる可能性があります。つまり、急激な円安の進行が懸念されます。

財務省が来年度から歳出抑制・増税で本格的に財政再建に着手する背景には、以上のような国債の大量累積に伴う問題があります。

図3 一般会計歳出に占める国債費の割合と推移

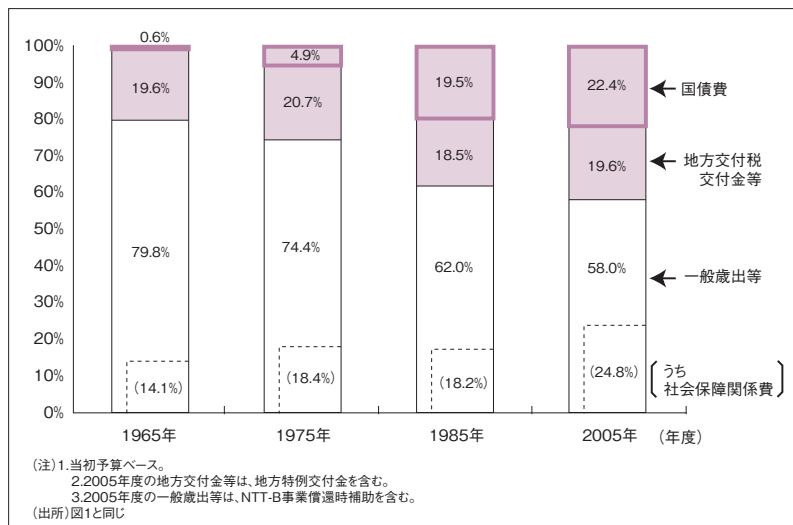


図4 国債の保有者別内訳

| 所 有 者           | (2004年3月末) |
|-----------------|------------|
|                 | 割 合        |
| 政府等             | 41.4%      |
| うち財政融資資金        | 9.4%       |
| 郵便貯金            | 15.3%      |
| 簡易生命保険          | 9.3%       |
| 公的年金            | 7.1%       |
| 中央銀行(日本銀行)      | 15.0%      |
| 銀行、民間保険会社、企業年金等 | 33.7%      |
| うち預金金融機関        | 21.2%      |
| 証券投資信託          | 1.5%       |
| 証券会社            | 0.9%       |
| 海外              | 3.7%       |
| 家計              | 2.6%       |
| 対家計民間非営利団体      | 1.1%       |
| 非金融法人企業         | 0.2%       |
| 合 計             | 100.0%     |

(出所) 日本銀行

## 公的年金が抱える問題について

くまざわ ゆみ  
経済学部助教授 熊沢 由美

### 人口構成の変化と公的年金の関係

日本の公的年金は、人口構成の変化に大きな影響を受けます。それは、賦課方式という短期で収支のバランスをとる財政方式のためです。公的年金の保険料と給付の関係は、本人が若いうちに積み立てた保険料から老齢年金が給付されているのではなく、そのとき若い人が支払う保険料から給付されていることになります。したがって、少子高齢化の影響は非常に大きいものとなります。日本の公的年金の制度体系は図のようになっていますが、たとえば、国民年金と厚生年金の収支を簿価で見ると、現行の国民年金は2002年度に(485億円)、厚生年金は2003年度に(3,379億円)、それぞれ初の赤字に転じています。

### 2017年まで続く保険料引上げ

そのため、2004年の年金制度改革では「持続可能」と「安心」が強調されました。とくに保険料の引上げを極力抑制するために、保険料と給付の基本的な考え方が変更されました。給付水準を設定してから負担(保険料)水準を設定するのではなく、まず将来の負担の上限を設定し、その範囲内で給付水準を調

整するとしています。

この改革による保険料の引上げはすでに始まっています。2006年2月現在で、国民年金の保険料が月額13,580円、厚生年金が年収の14.288%(厚生年金の本人負担はこの半分、以下同じ)となっています。国民年金は毎年280円引上げられ、2017年度以降16,900円で固定されます。厚生年金は毎年0.354%引上げられ、2017年9月以降18.3%で固定されます。

### 物価が上がっても年金額は上がらない

この保険料等の収入により給付水準が調整されるわけですが、際限なく給付水準が下がらないよう「所得代替率50%」が確保されています。所得代替率とは、給付を受け始める人の年金額が、現役世代の平均的な手取り賃金にたいしてどのくらいの割合になるかを示したものです。しかし、これには注意が必要です。あくまでもこれは「標準的な世帯」つまり夫が平均的収入(月給36万円)で40年間就労し、妻がその期間専業主婦であった夫婦の合計額であるからです。実際には、表のように「標準的な世帯」よりも合計所得の高い世帯ほど年金額は高

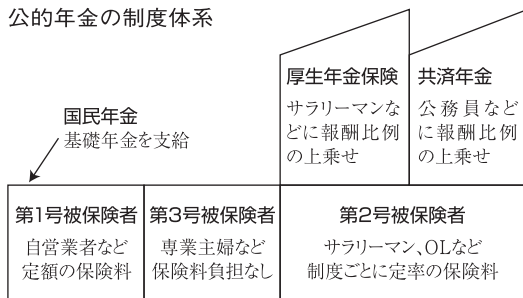
くなりますが、所得代替率は低くなります。必ずしも50%が保証されているわけではないのです。

また、これはあくまでも年金の給付を受け始める時点の話です。年金額は毎年物価の変動にあわせて調整されていますが、物価が上昇した時にはマクロ経済スライドが適用されることになりました。これは物価の上昇率からスライド調整率(2005年度までは年平均0.9%程度)をひいた分のみ年金額に反映させるということです。簡単に言うと、物価が上がっても、今までのようには年金額は上がらないということです。

### さらなる改革が求められる公的年金

日本の公的年金は、社会的な扶養の仕組みとして大きな役割を果たしてきました。しかし、近年では国民年金の保険料未納者は3割を超えていますし、専業主婦(夫)も保険料を負担すべきという議論もあります。公平で、信頼ができ、安心感を得られる年金制度であるためには、現在の公的年金にはさらに改革が必要であると言えます。

公的年金の制度体系



| 世帯所得(2004年水準)  | 20.0万円 | 30.0万円 | 36.0万円 | 50.0万円 | 60.0万円 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 手取り賃金(2004年水準) | 21.8万円 | 32.8万円 | 39.3万円 | 54.6万円 | 65.5万円 |
| 手取り賃金(2025年水準) | 26.2万円 | 39.3万円 | 47.2万円 | 65.5万円 | 78.7万円 |
| 年金月額(2025年水準)  | 19.1万円 | 22.0万円 | 23.7万円 | 27.7万円 | 30.6万円 |
| 所得代替率(2025年水準) | 73.0%  | 55.9%  | 50.2%  | 42.3%  | 38.9%  |

(注) 世帯所得＝ここでは標準報酬月額。月給を一定幅で区分し、区分ごとに設定した基準額。  
手取り賃金＝ボーナスを含めた年収を月額に換算したもの。  
(参考) 厚生労働省「平成16年年金制度改革について(国民年金法等の一部を改正する法律) 参考資料」

## 古希を迎えた野間記念道場

経済学部教授 仁昌寺 正一



道場を寄贈した野間清治氏  
(『東北学院七十年史』)

土樋キャンパス90周年記念館の地階にある剣道部の道場(錬心館)は、今からちょうど70年前の1936(昭和11)年に完成した武道場の名称を受け継ぎ、「野間記念道場」と呼ばれています。この名称は、この建物の建設資金が、報知新聞社社長として、また講談社社長として名を馳せていた野間清治氏によって提供されたことに由来しています。当時、シュネーダー院長と親交があった野間氏は、日本武道に深い関心と理解を持っており、また御長男の恒氏も青年剣士として全国に知られていました。そして1934年頃、アメリカの宣教師が本学院を撮影して持ち帰った写真(あるいは8ミリフィルム)をたまたま目にし、本学院の道場の大変粗末なことに心を痛め、新武道場の寄贈に及んだということです(『東北学院大学剣道部七十五年記念誌』より)。

この建物は、現在の7号館(1964年に完成したので、かつては64年館と呼ばれていました)がある場所にありました。南北に27メートル、東西に10.8メートルという大きさで、真ん中が板戸で仕切られ、東側半分が剣道場として、西側半分が柔道場としても使用できたといえます。その他、洗身場や脱衣室等も備えられており、当時としては、文字通り「近代的な道場として模範的なもの」(『東北学院七十年史』)でした。それだけに建設費も当時としては破格の6千円にも上りました。いうまでもなく、この全額が野間清治氏の寄付によるものでした。

その後、いわゆる太平洋戦争が激化してくると、この建物は、軍に接收され軍需物資の倉庫として使用されました。しかし皮肉にも、そのようなことが幸いし、1945(昭和20)年7月10日未明の「仙台空襲」の際には、周囲の建物が全焼したにもかかわらず、軍隊によるこの建物への消火活動が重点的に行われた結果、焼失を免れました。(志子田光雄「土樋キャンパス物語」、『東北学院資料室』創刊号、2001年12月)。

この建物は戦後GHQによって日本の武道が完全に禁止されたため、終戦直後は集会や演劇の練習に使用され、また1949年に新制大学になると理科学実験室として使用されました。やがて1950年代に日本武道がスポーツとして再開されると、野間氏の御厚意に応えるためにも武道場を再建すべきであるとの機運が大学関係者の間で高まり、ついに1963(昭和38)年、新装の野間記念道場・錬心館が完成しました。場所は、現在の体育館の南側でした。なお、最初の野間記念道場は、64年館の建設に先立って解体されました。

しかしながら、この新たな道場もまた、新制大学設置50周年を期した土樋キャンパス内の環境整備計画によって取り壊さざるをえない状況となりました。かくて、2001(平成13)年、90周年記念館地階の道場にその魂を受け継ぐことになったわけです。

このように、今年「古希」を迎えることになった野間記念道場の歩みは、決して平坦なものではありませんでした。このような歴史の重みを受け止めるかのように、道場の入口には、錬心館と書かれた古い看板とこれまでの歩みを概説した一文のパネルが掲げられています。そしてその一文の結びには、「伝統の魂を受け継ぐ決意」で、「剣道部一同、野間記念道場で、日々稽古に励み、更なる飛躍を誓うものである」と記されています。



野間記念道場落成式(昭和11年6月11日)





## Cabin Attendant

全日本空輸株式会社

キャビンアテンダント

あべ あきこ  
**阿部 亜希子** さん

平成11年度 文学部英文学科卒業



笑顔と元気とあたたかさを大切に  
お客様に心地よい時間を過ごしていただくため  
日々頑張っています。

### 大学生活の中で特に印象に残っていることをお聞かせください。

大学2年生までは文学部二部で学んでいたのですが、昼は生協でのアルバイト、夜は授業と一日中大学にいました。誰よりも長い時間キャンパスで過ごしていたかもしれません。勉学もちろんですが、大学生活の中でよい人間関係をつくることができたことが一番の成果と言っているでしょう。

### 現在の仕事を選んだ理由をお聞かせください。

大学で培った人間関係やアルバイト経験を生かして人と接する仕事をしたいと思ったことと、全日空に入社した先輩の話聞いて、アットホームで楽しそうな会社だと感じたことが、この仕事を目指したきっかけです。しかし、卒業年度の1999年に不採用となり、その後2年間募集を待って再受験し採用となったのです。

### 阿部さんの現在のお仕事についてお聞かせください。

国内線でお客様のサービスをしています。また耳のご不自由な方に手話で話ができるよう手話検定を受けるなどしてサービス向上にも日々取り組んでいます。この仕事には、接客だけでなく保安要員としての役割もあるため、お客様の生命を預かるために必要な技術や資格取得にも日々取り組んでいます。

### 後輩たちへ、ひと言メッセージをお願いします。

生協でのアルバイトと、卒業後に東北学院大学の調査企画課で働く機会をいただいたことが今の仕事に役立っていると思います。特に卒業後の2

年間は、学生時代には取り組んでいなかった言葉遣いや英語を独学でじっくり学べた貴重な時間となりました。その頑張りも大学時代に知り合った職員の方々や友人たちの支えがあったからこそ。夢はあきらめずに叶えるものです。みなさんも夢に向かって悔いが残らないように努力をして欲しいと思います。



# 快挙

## 第53回全日本剣道選手権大会

### 同窓生3名が出場

平成17年11月3日(祝)に日本武道館で行われた第53回全日本剣道選手権大会に、本学の同窓生3名が出場しました。各都道府県の予選を勝ち抜いて出場権を得るこの大会は、いわば剣道の頂点。その栄光に輝いた3剣士に、剣道に対する思い、大学時代のエピソードなどを伺いました。



山形県警

川木

一也さん

三年連続三回目の出場ベスト十六に二回

平成十二年三月  
経済学部経済学科卒業



宮城県警

遠藤

稔正さん

初出場

平成十三年三月  
経済学部経済学科卒業



静岡県警

高坂

雄介さん

三年連続三回目の出場

平成十五年三月  
経済学部経済学科卒業

剣道は幼稚園の頃から始め現在まで続けてきました。その中で一番稽古を積んだのが大学時代です。4年生の時にキャプテンを務め、全日本学生剣道優勝大会でベスト4入りしたことが忘れられない思い出です。進路に警察官を選んだのは全日本剣道選手権大会出場者の9割を警察官が占めており、剣道をいかにする道はこれしかないと思ったから。とにかく剣道を極めたいという気持ちが強かったのです。大学の4年間は一番何かに打ち込める時です。みなさんも充実した日々を過ごしてください。

私が東北学院大学を選んだのは、高校時代に見た試合に感銘を受けたことがきっかけです。試合結果は負けだったのですが、明らかに強いと感じたのです。4年生の時にキャプテンを務め、全日本学生剣道優勝大会で3位になったときも、関東の大学に強い剣士が集まる中で、地元に残っていてもここまでやれるんだという誇りを持つことができました。この大学に入ってよかったと思えましたね。今大会に出場した川木先輩と高坂くんとは互いに刺激し合う仲間。大学で得た仲間は財産です。

全日本学生剣道優勝大会に出場した際に、静岡県警の師範から「静岡県警に来ないか」との話があったのが、今の職に就いたきっかけです。全日本剣道選手権大会は、剣道をやっている人間なら一度は出たいと思う大会です。いわば剣道の頂点。ここまで来られたのも大学時代の厳しい鍛錬の賜物だと思っています。あの経験があったからこそ現在の機動隊の厳しい訓練にも耐えられるのです。私にとって剣道は自分を成長させてくれるもの。剣道は私の全てといっても過言ではありません。

# アジア・コレクション「東西文化の接触と相互影響、および＜ウエスタン・インパクト＞政策形成の基礎文献に関するコレクション(略称:アジア・コレクション)」の紹介(その2)

東北学院創立120周年の記念すべき今年、図書館では第20号で紹介しました「アジア・コレクション」などの特別展示会を開催することを計画しております。今回購入した図書資料は、総計38点、うち9点は古地図です。このコレクションの内容の一部(イエズス会関係および訪問中国使節関係)を紹介いたします。なお、書名は訳書のあるものはそれに従い、それ以外は略称・簡称に従います。

## 【イエズス会関係】

- ・グスマン『東方伝道史(1540～1601年間)』初版1601年  
⇒著者が天正遣欧使節に会ったこともあって、特に日本に関する記述が多い点で著名です。
- ・アコスタ『東方布教史』初版1571年  
⇒イエズス会最初の布教史です。
- ・ル・コント『中国誌』英語版初版1697年
- ・マルティーニ『中国史』初版1658年  
⇒欧人による最初の本格的中国史。キリスト紀元までの歴史を通観しています。
- ・パラフォックス・イ・メンドーサ『中国征服史』初版1670年  
⇒フィリピン経由の情報によって執筆されたものです。彼自身は中国に行っていません。明清交代と清朝の江南支配の確立についての記事が豊富です。
- ・フェルベースト『イエズス会士フェルベースト中国伝道書簡』1678年に北京で印刷された木版本  
⇒中国布教の意義と必要性について述べ、清朝支配の実現がその好機と記しています。
- ・デュ・アルド『中国帝国全誌』英語版1738年～1741年  
⇒ヨーロッパにおける東洋学の勃興に寄与しました。
- ・ゴービル訳『書経』1770年 ゴービル仏訳、ド・ギーニュ編集・刊行  
⇒ヨーロッパで刊行された最初の書経です。ゴービルはイエズス会宣教師で語学に優れ、この書も底本は満州語訳書経です。なお、儒教・道教は西欧人の関心を高め、中国文化を本格的に研究する方向がやがて確立されることとなります。



デュ・アルド「中国帝国全史」英語版



バロウ「中国旅行記」、ストーン「中国使節記」、マカートニー「中国内陸部旅行記」

## 【訪中使節団関係】

以上、イエズス会の中国伝道を通して、大量の中国情報がヨーロッパ世界にもたらされました。しかし、雍正年間には、いわゆる“典礼問題”を機に中国におけるキリスト教布教が禁止され、ローマ教皇によって異端とされたイエズス会は解散させられました。かくて、中国世界と西欧社会の間で多大の情報や知識を伝えてきたイエズス会時代は終わることとなりました。18世紀半ば以降、中国との貿易に本格的に参入した英国は、当時清朝が強制していた鎖国体制下における不自由な貿易制度(カントン貿易体制)の打破を意図し、19世紀の半ばのアヘン戦争・南京条約によって、中国世界の開国を実現しました。中国世界は、これ以降は“条約体制”といわれる“半封建・半植民地”の時代に入ることとなりました。

イエズス会士による中国情報が無くなって以降、英国がアヘン戦争に先だてて直接中国世界内部の情報を入手する機会になったのは、貿易体制の改善のために派遣されたマカートニーやアマーストらの訪中使節の見聞・調査でした。これらの機会に得られた情報がアヘン戦争の際に大きく役だったのは明らかです。

- ・マカートニー『中国内陸部旅行記』フランスにおける初版1798年
- ・バロウ『中国旅行記』初版1804年⇒マカートニーの同行者。
- ・ストーン『中国使節記』初版1797年  
⇒マカートニーの同行者。19世紀半ばにあつて最も権威のある中国誌とされました。マカートニー使節団で唯一中国語を解したのは彼一人であつたとされ、その後の英国と中国の外交に活躍しました。

マカートニー使節は貿易条件改善の目的は何ら実現できませんでしたが、帰路に大運河を南下するなど、中国国内旅行を通して得た情報はきわめて大きかったそうです。アヘン戦争当時、林則徐が守備を固めていたカントンを避け、北上して天津の白河河口に至った経路は、マカートニー一行の往路と同じであり、また大運河を南下した帰路の諸見聞を通して、清朝を屈服させるためには、大運河と揚子江の交点を制圧することが有効と看破しているなど、アヘン戦争の際の英国の軍事行動は、この訪中団の得た情報に大きく依っていたことは明らかです。



## 杜の都を駆け抜けた女子陸上部

第23回全日本大学女子駅伝は、難波の地から杜の都に移して2005年11月27日に開催されました。本学陸上部は5年連続東北代表として杜の都に思いを込めて、一本のタスキを繋ぎ39km6区間を力走いたしました。この大会は過去にオリンピックなどで活躍したランナーを輩出した実績のある大会で、参加大学の陸上部は最大の力を入れている大会です。

本学の女子陸上部は1年生を主体にチームを編成し、全国の強豪校に臆することなく戦いを挑みました。ブルーの小旗や幟を持った学生と市民そして教職員の沿道からの声援を背に受けて大健闘し、今後の躍進に手ごたえをつかんだ大会でした。

多くの市民から来年の活躍に励ましの言葉を頂き、杜の都から全国へ「東北学院大学陸上部ここにあり」とその名を轟かせたいと関係者一同願っております。



写真提供:読売新聞社

## 東北学院大学文化講演会2005を青森にて開催

2005年11月26日(土)、ホテル青森(青森県青森市)にて「東北学院大学文化講演会2005」を開催しました。文化講演会は宮城県を除いた東北各地で毎年秋に地域文化の支援を目的として開催しております。3回目となる今年は、青森県下で多数の土器・土偶が出土されている“縄文”を共通のテーマに「縄文人のルーツと日本列島の人類史」と題した講演と、「縄文人の交流と三内丸山遺跡」と題したパネルディスカッションの二部構成で実施いたしました。講師は東北大学医学部の百々幸雄教授が、「解剖学の立場からみた縄文人」のルーツについて新しい見方を提示され、また、パネルディスカッションでは、青森県郷土館副館長の福田友之氏、本学文学部の辻秀人教授、佐川正敏教授により、近年の出土品が紹介されました。閉会后参加者から今後も同様の催しを継続してほしいとの要望が多数寄せられました。



「東北学院大学文化講演会2005」開催風景

## column WELL

### 讃美歌で門出を祝福

卒業式・入学式のご案内

#### ■平成17年度卒業式

日時:平成18年3月23日(木)  
11時~12時30分  
会場:仙台市体育館  
(仙台市太白区富沢)



#### ■平成18年度入学式

日時:平成18年4月5日(水)  
10時30分~12時  
会場:仙台市体育館  
(仙台市太白区富沢)



例年、東北学院大学の卒業式・入学式は、主役の卒業生、新入生のほか、来賓のご父母並びに先輩や後輩を祝福する在学生等に囲まれながら、キリスト教大学として、讃美歌を歌い、聖書の言葉を聴く礼拝形式で営まれます。

両式典ともに、ご家族どなたでも自由にご出席いただけますよう、お席を用意しておりますので、多数のご出席をお待ちしております。

なお、会場には駐車場がございませんので、公共交通機関でのご来場をお願いいたします。

問い合わせ先  
総務部総務課  
TEL. 022-264-6412  
Email tgsomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

# From the President.

学長室より

## 「脳の学習能力」

ほし みや のぞむ  
学長 星宮 望

私はこれまで神経・筋系に関する電子工学的研究を行ってきましたが、これらの研究をすればするほどに生体システムに内在する精緻巧妙な神経・筋系のはたらきに感心いたしました。換言すれば、創造主(神)の深いご計画・配剤の妙を垣間見たように思い感謝しております。その内での第1の研究テーマである「麻痺した手、足の電子的制御の研究」については、本誌Vol.16(2004年MAY)の「私の研究の紹介」で記したので、今回は第2の研究テーマであった「神経回路の学習と自己組織化の研究」について記します。

動物、なかでも人間の神経系、筋肉系の働きは素晴らしいものがあります。神経の電気的な活動が脳で発生し、末梢の筋肉へ送られることで手や足の運動が引き起こされます。一方、目で外界の状況を見ることができたか、音が聞こえたなどの情報は神経の電気的な活動となって脳に伝えられ、認識されます。このような分野の研究で興味ある研究の一つにBlakemore & Cooperの実験(1970)があります。生後間もない子猫を円筒形の小さな空間に固定して飼育しました。そしてこの円筒の内側全面に白と黒の縦の縞模様を貼り付けました。そのため子猫は常にこの縦縞だけを見続ける環境におかれることになりました。そして数ヶ月飼育した後に、縦縞と横縞のパ

ターンを見せたときの脳の視覚系の細胞の応答を測定いたしました。その結果、縦縞に応答する神経細胞はたくさん見つかりましたが、横縞に応答する神経細胞はほとんど見つかりませんでした。このように、高等動物の視覚系は、生まれてから一定期間内に外界のパターンを学習する機能を持っていることがわかっています。神経細胞が外来の刺激などによって相互の結合状態を自ら変更・修正して高度の機能を獲得していきます。そしてこの学習機能がとくに優れている期間は限定されていて、生後数ヶ月といわれています。このようなことは、猿についても多くの研究がなされており、視覚経験のある猿では、提示された丸や三角や棒などのパターンを選択的に識別する細胞が見つっています。また、人の顔に対して選択的に応答する細胞も見つっています。一方、聴覚系においても、視覚系ほどはっきりしてはいませんが類似のことが報告されています。そして、このようなことは、我々人間でも見られます。例えば、第2次大戦の終結の頃に、中国で生まれたばかりの兄弟が別離して、一方は日本に帰り、一方が中国に残留した例が多くありました。日本に帰った子供は日本語を話し、中国に残留した子供は中国語を話していたことは当然です。しかし、なぜ当然なのでしょう。これも、先ほどの子猫や猿の視覚系と同じように「神

経回路の学習機能と可塑性」のためです。我々人間にも、視覚系や聴覚系には、この「神経回路の学習機能と可塑性」の機能があります。ある条件下では、繰り返し呈示される刺激を心地よいものとして受け入れるように我々の脳の神経回路が形成されていくようです。この自己組織化機能は、乳児、幼児から年長になるにつれて形成速度に相違が出てきますが、一般的には成人になっても続きます。このような環境による神経回路の自己組織化を経て、それぞれの個性が育まれていくのでしょうか。

私にとっては、東北学院中学・高等学校で6年間、毎朝礼拝に連なり、讃美歌を繰り返し唱和し、聖書の教を繰り返し呈示されて育ったことは、素晴らしい神経回路の自己組織化の環境を与えていただいたものと感謝しております。東北学院大学においても建学の精神を受け継いで、このような良い環境を若い学生諸君に絶えず提供し続けていることは重要であり、また誇らしいことと思います。毎朝の礼拝の機会に、聖書の教えに加えて、優れた先人の歩み、学問のこと、将来の自分のことなどについての思索の時間を持つことができます。このことこそが、すぐれた人格形成の教育環境を備えていることになっていると思っています。



# Graduate School info.

大学院より

## 法務研究科

### 近況

本学の法科大学院が、この新しい学校制度の誕生と同時に設置されて間もなく2年。設置半年後、本誌17号で、文部科学省補助金による「講義映像の活用」事業などを紹介したのにつづき、近況を報告します。

昨年4月には第2期生が加わりました。いまは全体で80余名の学生が、土樋キャンパスの「法科大学院・総合研究棟」で勉強しているわけです。

設置2年目の教育で大きく変わったのは、2年生の演習科目がはじまったことでしょう。たしかに、大学の教育で演習はめずらしくありません。しかし、本学法科大学院では、かなりの数の演習がすべての学生にとって必修です。後期を例にとれば、憲法や民法など5つの演習がそれぞれ毎週100分ずつ行われ、学生はすべての演習に向けて毎回課題の提出や予習・復習をなくてはなりません。このような事情もあり、また、2月の期末試験の準備もあったからでしょう、年末年始もなく、元旦でも20人以上

の学生が学校に来て、自習室で勉強をしていました。

第3年目ではこの春に第3期の学生を迎えます。第1期生は最終学年となり、この3年生向けに、法律実務関係の科目が数多く開かれることになります。ますます多くの仙台弁護士会会員に助けられ、法務省には検察官を教員として派遣してもらいます。

5月には第1回目の新司法試験が行われ、9月に合格発表の予定です。ただし本学では、第1期生としては標準の3年間修了生だけを募集し、2年の短縮型修了予定者を受け入れていません。第1期生が新司法試験を受験するのは今年ではなく来年の5月です。

本学法科大学院は、依頼者の生活実感に共感でき、地域に根付き、地域の問題に誠実に取り組む弁護士の育成を第一の目標にしています。こうした目標達成の前提として、学生諸君の新司法試験合格にむけ、法科大学院として適切な指導も必要であると考えています。

## 文学研究科

### ハイダー教授による連続講義

9月に4日間にわたり、ザルツブルグ大学言語学科のフーバート・ハイダー (Hubert Haider) 教授による連講 (英語学・言語学特別講義) が行われました。ハイダー教授は、語順の変異とその特徴付けを研究をされてきた一線の、著名な研究者です。講義は、教授が用意されたトピックについて英語で行われました。人間本性の一部としての言語にはどのような語順があるのか、異なった語順をもつ言語間に共通の語順は存在するのか、あるとすれば語順の言語間差のどのような特徴付けが可能なのか、等々についてハイダー教授の学説が展開されました。さらに、学生の研究テーマについて教授がコメントをするという時間外サービスも行われました。

本専攻の創設時よりの指針は、流行ではなく不易としての基礎力の地道な涵養であり、その成果は周知のところ です。その基礎力の基盤として、世界の研究動向に注目するのは、研究対象とその研究者が局所化している分野を除けば、当然のことです。研究の場の拡張は単に学生への指針に留まっては いません。過日、本専攻の那須川訓也教授による研究書がドイツの出版社から刊行されましたが、これは、この指針を教員自らが体現していることの一 端です。

研究者としての学生には、海外の学会への出席ですら経済的理由から大きな負担です。いわんや世界の一流の研究者から直接指導を受けることは絶望に近いのが現実です。さらには、言語研究のような速度の速い分野では、印刷物の情報では遅すぎ、致命的です。このような状況下で、今回の連講は、学生がハイダー教授から直接指導を受け、教授を通して世界を目の当たりにすることで、各自の研究を振り返る格好の機会になりました。実効を伴った望ましい国際交流の形態と言えるでしょう。今後も、このような機会を設定していきたいと願っています。



ハイダー教授による講義風景

### 法学部

#### 近況

第1は、法学部の卒業生から司法試験合格者が出たということです。本当にしばらくぶりのことです。法学部では5年前から東京の司法試験予備校と提携し、司法試験対策講座を開講するなど、司法試験対策に力をいれてきました。今回の合格者もこの講座を受けてきた学生です。この学生を含め、今年は本学から「短答」に4人が合格しています。そのうち2人は現役学生です。対策の成果が目に見えるかたちで出てきたといえます。現在では、対策の重点は現行司法試験から法科大学院進学に移っていますが、その成果によって、本学法学部出身の法曹がこれからも次々と誕生することは十分期待できます。

第2は、いま述べたこととも関連しますが、法科大学院進学者を増やすための新しい試みについてです。それは、今年4月からスタートする新しいカリキュラムのなかに「法曹養成実習」という科目を設置します。この科目は、「法曹養成実習Ⅰ」（1年）、「法曹養成実習Ⅱ」（2年）「法曹養成実習Ⅲ」（3年）から構成されており、3年間をかけて法曹志望学生を対象に法科大学院（しかも2年間で修了できる既修者コース）に合格するための対策はもちろん、司法試験に合格し法曹になるために必要な知識・意欲・技能についてもその基礎を講じようというものです。

この科目は、開講場所・時間においても特徴があります。現在、法

学部の1・2年生は泉キャンパスで授業を受けていますが、この「法曹養成実習」は土樋キャンパスで、しかも夜間の授業時間を利用して行われます。学生にとってはキャンパス間の移動が大変ですが、土樋キャンパスに研究室をもつ法学部教員が土樋キャンパスの施設・設備を利用してきめ細かい指導をするには、この方式がよいと考えました。実際、この方式ですと法科大学院の教員からさまざまな形で授業を応援してもらうことも可能になります。

第3は、法学部・法科大学院のスタッフが中心となって運営している法学政治学研究所主催の公開講座「市民生活と法」が例年どおり行われたということです。この公開講座は、一般市民を対象に、法学・政治学の分野で市民生活の関係する問題をわかりやすく解説するという趣旨で16年前から行われており、今年は1月14日（月）から18日（金）の5日間開催されました。

今年のテーマは第1日目「同性カップルと婚姻」（渡邊泰彦・法務研究科助教授）、第2日目「著作権法について」（皆川潤・法務研究科助教授）、第3日目「少年法と少年非行」（守屋克彦・法務研究科教授）、第4日目「最近の刑事立法」（宮川基・法学部講師）、第5日目「『憲法改正国民投票法』って何ですか？」（中村英・法務研究科教授）でした。例年のことですが、今年も熱心な受講者が多く、質疑応答にかなりの時間を割くこともありました。

#### 輝く教育研究

#### 法学部法律学科 講師 宮川 基

法学部への進学を考えている高校生から、「法律を勉強するためには、法律の条文を暗記しなければならないのですか」という質問をしばしば受けます。私は、そのたびに「いいえ、条文を暗記する必要はありません」と回答します。それでは、法律学の勉強とは何かと言いますと、法律の条文を解釈することです。例えば、刑法199条は、「人を殺した者は、死刑又は無期若しくは5年以上の懲役に処する」として、殺人罪について規定しています。ここでいう「人」とは何でしょうか。お母さんのお腹の中にある胎児も「人」に含まれるのでしょうか。あるいは、「人」と言うためには、お母さんのお腹

から胎児の体の一部が出る必要があるのでしょうか。それとも、お母さんのお腹から体の全部が出る必要があるのでしょうか。このように法律の文言の意味内容を考えることを、「解釈」と言い、これが法律学の基本です。ところで、法律の解釈をするためには、実は、法律以外の知識、例えば、生物学、医学などの知識も必要となります。したがって、法律の解釈とは、総合的な知識を必要とする知的作業です。だからこそ、様々な知識を学ぶことができる法律の解釈が、法律学の基本なのです。



## 文学部

### 歴史学科の新しいカリキュラム

2005年4月に、史学科の40年にわたる伝統を受け継ぎ、新しく歴史学科が誕生しました。現在188名の第1期生が1学年に在籍しています。

歴史学科は従来の史学科にあった地理分野が教養学部地域構想学科に移ったため、日本史、東洋史、西洋史、考古学、民俗学の5分野で構成されています。これまでもまして歴史分野に集中した特色ある学科として国際的な歴史の交流を明らかにすることや、歴史的な視点からの現代社会の解明を目指して研究、教育を実施してまいります。

さて、歴史学科ではこれまでのカリキュラムを大きく変更いたしました。コンピュータや就職に関連する科目を加えたこともその一環ですが、何よりも「テーマ史」と呼ぶ新たな科目群を中心的な専門教育科目としたことが最大の特色と考えています。

「日本国の誕生」「戦いの歴史」「中国文明の黎明」「三国志の世界」「ギリシア・ローマ文化論」「民間信仰論」「日本と東アジア」「東西交渉史」「女性史」「アジアの近代」等々が新たに設けられた「テーマ史」の講義題名です。このような講義題名にみなさんはどのような感想をもたれるでしょうか。

これまでの大学の歴史の講義題名といえば、「日本古代史」や「東洋史特殊講義」などのいかめしい題名が並んでいたものでした。このような講義は、学問の体系をそのまま学生諸君に伝えようとしてものだと思います。歴史学科の「テーマ史」はこれまでとは発想を変えて、歴史から学んだ学

問の成果を分かりやすくコンパクトにまとめて学生諸君に伝えようとするものです。また、取り上げる「テーマ」には国際的な視野に立つもの、現代社会の直接的なルーツとなる近代に関わるものなどを重点的に選びました。地球が狭くなり、難しい状況に直面する現代を考えるためには、このような視点が重要だと考えたからです。

それぞれのテーマ史の背後には歴史学科の各先生の日常的な調査、研究の成果があります。歴史学科には、他大学に負けない多様な分野の教員が揃っています。そして各々が自らのテーマに沿って精力的に調査研究を行っています。各テーマ史の内容は各々の教員の研究テーマそのものか、それに近いもので構成されています。つまりテーマ史では研究の第一線で追求されている問題などについて分かりやすく学ぶことができるのです。

実は、テーマ史はまだ開講されていません。というのはテーマ史の開講年度は2学年が最初だからです。2006年度には、初めてテーマ史が開講されます。私たち教員も初めての講義となります。新鮮な気持ちで現在講義の準備を進めています。学生諸君にも是非期待していただきたいと思っています。また、テーマ史の内容を公開講座で市民の皆さんにも聞いていただけるようにしています。今年度は「戦いの歴史」と「交流の世界史」をテーマに実施いたしました。機会があれば、覗いてみていただければと思います。

## 輝く教育研究

### 共同研究から芽生えた日韓学術交流

文学部歴史学科 教授 くま がい きみ お 熊谷 公男

平成15年度から5年間の予定で、文学研究科アジア文化史専攻と経済学研究科が中心となって私立大学学術研究高度化推進事業・オープンリサーチセンター整備事業という大型の学際的な共同研究を行っております。その研究テーマは「アジア流域文化論」というもので、アジア各地の河川流域の文化を、歴史・民族・経済・国家などの問題との関連で総合的に明らかにすることを目的としています。

私の専門は日本古代史ですが、同じ文学研究科アジア文化史専攻で考古学がご専門の辻秀人・佐川正敏両先生とともに、韓国の流域文化研究のために初年度の平成15

年度から毎年現地調査を行ってきました。その調査が機縁となって今年度から忠清南道のテジョン(大田)広域市に所在します国立忠南大学校の百済研究所(張寅成所長)との学術交流が始まりました。2006年5月には私ども3人が参加して百済研究所で古代の日韓交流をめぐるシンポジウムを開催することになりました。将来的には大学院生・学生も含めた息の長い交流にしていきたいと考えております。

## アーサイナス大学夏期留学 ー未来への架け橋ー

2005年度 第33回 アーサイナス大学夏期留学参加学生

文芸部英文学科3年 いとう まりこ 伊藤真理子

ぬけるように青い空。燦々と輝く太陽。そして、底抜けに明るい人々の笑顔。アメリカに降り立った私達を迎えた光景が、それまでの不安を瞬時に一掃してくれたことを思い出します。私達学生14名は、ディレクターの小田先生、アシスタントの村尾さんと共に、8月1日、自由の国アメリカへと渡りました。最初に訪れたアーサイナス大学での寮生活。カレッジヴィルの豊かな自然に抱かれた大学内では野生のリズや蜚を見るのができ、新鮮な空気を満喫しながらのびのびと過ごすことができました。講義は、現地の先生方がアメリカに関する様々なテーマをとりあげ、自分の考えを発表する場を多く設けてくださいました。

ネイティブスピーカーの英語に必死で耳を傾け、それを理解して自分の考えを自分の言葉で表現するということはやはり容易ではありませんでしたが、拙い表現でも異文化の人々と意思疎通できた時の喜びは筆舌に尽くせません。その喜びは後に自信へと変わり、いつしか臆することなく英語に接することができるようになっていく自分がいました。文化の違いを超えて楽しさを共有できた喜び。第二の家族ともいえるホストファミリーとの出会い。ミュージカルを観て流した感銘の涙。今回の夏期留学の貴重な経験の数々を、未来へと繋がる大きな架け橋にして、日々成長していきたいと思います。



国際交流協定校と協定対象校\* (2005.4.1現在)

University of Durham ダラム大学(イギリス)  
University of Ulster アルスター大学(イギリス)  
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)  
※Universitaet Trier トリア大学(ドイツ)  
Universite de Savoie サヴォア大学(フランス)  
Nankai University 南開大学(中国)  
Pyongtaek University 平澤大学校(韓国)  
Daebul University 大仏大学校(韓国)  
※The University of Sydney シドニー大学(オーストラリア)  
University of New South Wales ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)  
University of Victoria ビクトリア大学(カナダ)  
Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)  
Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)

問い合わせ先 国際交流課

TEL.022-264-6425/6404

E-mail ico@tssc.tohoku-gakuin.ac.jp

## 成熟した大人を目指して ー秋季講演会の開催ー

カウンセリング・センター

本学カウンセリング・センターでは、学生さんからの「よろず相談」をお受けするほか、毎年秋には学外から講師をお招きし、一般の方々にもご参加いただける公開講演会を開催しております。

今年度は11月14日(月)の午後に、上智大学カウンセリング・センターのカウンセラーとして学生相談にあたっておられる畠山朝子先生をお迎えし、「社会人になることーあせらず、恐れすぎず、あなどらずー」と題する講演をいただきました。聴衆のほとんどは就職活動を始めつつある3年生でしたが、畠山先生は、「自分探し」や「自己実現」という言葉に惑わされずに、まずは社会の中に身を置いてみることから始めて、より成熟した大人になることを目指しませんか、という熱いエールを送ってくださいました。ご自身の経験や相談を受けた学生の傾向などの具体的なお話とともに、人生設計やキャリアに関する理論的資料も提示され、もっと時間が欲しいほど内容の濃いご講演でした。身体的なワークも取り入れて自分の人生上のミッションを考えるエクササイズには、聴衆の皆さんもとりわけ熱心に取り組んでいました。

学生から社会人への移行期にあたる大学生の時期は、あらためていろいろな問題に取り組むことが求められる時期でもあります。カウンセリング・センターでは、そのような学生の皆さんにさまざまな支援を試みています。



秋季講演会の様子

問い合わせ先 カウンセリング・センター

土樋キャンパス TEL.022-264-6401

泉キャンパス TEL.022-375-1186

多賀城キャンパス TEL.022-368-1326

## 哲学者カントと図書館

本学泉キャンパスの図書館では、毎年、小企画展を行っています。一昨年はドイツの大哲学者カント(Immanuel Kant, 1724-1804)の没後200年に当たり、「カント先生の耳寄りな話」という大変興味深い展示が行われました。この企画を考えてくださった教養学部の石川文康先生は、カント研究の第一人者ですが、カントについてのさまざまなおもしろいエピソードも展示に供しています。そのうちのごく一部をここにご紹介したいと思います。

カントが生まれ故郷の東プロイセン・ケーニヒスベルクから一歩も出ず、規則正しい生活を送り、彼の毎日の散歩が街の人たちの時計代わりになったというのは有名な話ですが、カントは、天文学によって太陽系の生成に初めて科学的なメスを入れた人物なのだそうです。また、晩年の著作『永久平和のために』には、今日の国際連合設立の基となった理念が提唱されています。カントは人類史上、最も重要な哲学者であるばかりでなく、実に多方面に偉大な足跡を残した人物だったのです。

そのカントは、何と図書館職員だったというのです。石川先生によれば、カントは1765年からケーニヒスベルクの王立図書館副司書だったそうですが、1770年に大学教授になってからも副司書の仕事を2年間続けていたということです。カントは、その仕事を通して図書館の文献によく目を通し、一般の哲学者が知り得なかった用語や方法論を駆使することが可能になったと思われます。

ぜひ、皆さんも図書館、特に閉架書庫等をいろいろ活用していただきたいと思います。



カント『道徳の形而上学』全2巻 初版 1797年

問い合わせ先 図書情報課

TEL 022-264-6491

URL <http://www.lib.tohoku-gakuin.ac.jp>

E-mail [query@lib.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:query@lib.tohoku-gakuin.ac.jp)

E-mail [query@lib.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:query@lib.tohoku-gakuin.ac.jp)

## 大学入試に対する基本的な考え方の変化

大学入試の性格が今後大きく変わると言われています。大学の入学定員よりも受験者のほうが多かった時代には、入学試験の最大の機能は「選抜試験」でした。18歳人口が減って、すでに2006年度入試より、大学への進学者が大学の入学定員総数よりも少なくなる「全入」の時代になったといわれています。大学の入学試験も大きく変化しようとしています。「これまでの『選抜機能』を重視した入学試験を実施できるのは、ごく一部の有力大学に限られるでしょう」。これは、ある機関が主催した大学入学試験に関するフォーラムでの総括者の発言です。

単に「入学者を選抜するための試験」から、「大学が育てたい「ひと」を明確にして、その「ひと」が大学に入学し、高い人間的かつ専門的能力をもって社会に羽ばたくための高等教育を行うという視点での入学試験」への変革が必要とされています。たとえば、各学科がどんな「ひと」を求め育てたいと考えているかについては、AO入試に関して各学科から重要評価項目が示されています。こうした本学が求め育てたい「ひと」について、「ひとを育てる」という視点を大事にして、今後とも進学相談会ばかりでなく高校訪問の充実や高校進路指導部あてへのアクセスの強化などを通じてコミュニケーションを図っていきたいと考えています。

## 今後の入試スケジュール

- ・後期日程入学試験 3月7日(火)
- ・後期日程合格発表 3月14日(火) 11時

問い合わせ先 入試課

TEL.022-264-6455

E-mail [nyushi@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:nyushi@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)



## 就職部より

### 平成17年度における就職状況の展望 ー充実した就職活動へのアプローチー

平成17年度における学生の就職活動も、いよいよ終盤を迎えようとしています。最終的な就職率は未だ確定していませんが、求人数は、景気的好転もあり昨年度より増加しています。具体的には、今年度は、バブル期以来の売り手市場と言われ、内定率も昨年を上回るとの予測が文部科学省から出ています。本学でも、内定率はいく分上昇しています。しかし現実には、企業は依然として厳選採用を行っており、採用の厳しさは相変わらずです。

採用に関して企業が評価するポイントは、コミュニケーション能力と基礎学力(具体例として、日本語の読み書き、平易な英会話、ITの活用、指数・対数程度の計算)、そして学生時代に培った知的能力と探究心の程度です。とりわけ基礎学力は、知っているだけでは不十分であり、できて使えるようになるまでの鍛錬が求められます。また専門分野に関しましても、知識の豊富さはもとより、それらに関連付け、ストーリーとしてまとめることのできる能力が要求されています。

就職部としても、採用側の求めに対応して学生の就職支援のために関わっていく考えです。

また今後は、従来の就職支援業務内容を吟味・検討し、学生のニーズによりいっそう適切に対応できる、きめ細かなサポート支援体制の構築を図るつもりです。

12月に実施された業界研究講座、就職先が内定している現4年生から3年生へのアドバイス、情報システム課の協力を得て実施した就職活動ウェブサイト利用の操作実習など、がその例です。さらに、2月に実施する3年生対象の学内企業研究講座についても、参加企業をできるだけ拡大して、学生に対する多くの企業情報の提供を図っています。

学生諸君が、提供される情報をいち早くキャッチし、そのチャンスを活用し、自らの人生設計にたゆまぬ努力を行うことが、結果に結びつきます。

皆様のご協力とご支援を今後ともお願いします。

問い合わせ先

土樋キャンパス就職課

TEL.022-264-6481 FAX.022-264-6486

多賀城キャンパス就職係

TEL.022-368-1101 FAX.022-368-1118

泉キャンパス就職係

TEL.022-375-1161 FAX.022-375-1534

#### 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、次の事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

##### 【募金目標額20億円】

1. 東北学院大学キャンパス整備
2. 東北学院中学校高等学校校舎建設
3. 東北学院榴ヶ岡高等学校体育館および管理棟建設
4. 東北学院会館(仮称)建設
5. 東北学院育英奨学基金の増額

詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。

#### 東北学院大学

##### ■土樋キャンパス

大学院:文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
法務研究科

学 部:文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、  
夜間主コース

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

##### ■多賀城キャンパス

大学院:工学研究科

学 部:工学部

〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

##### ■泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科

学 部:文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、  
教養学部

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

#### 東北学院中学校・東北学院高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1  
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

#### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

#### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



#### ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.21

##### 広報誌編集委員会

|      |           |        |
|------|-----------|--------|
| 委員長  | 総務担当副学長   | 関谷 登   |
| 副委員長 | 総務部長      | 高橋 征士  |
| 編集長  | 経済学部教授    | 原田 善教  |
| 委員   | 宗教部長      | 佐々木 哲夫 |
|      | 文学部教授     | 楠 義彦   |
|      | 経済学部助教授   | 白鳥 圭志  |
|      | 法学部教授     | 塩屋 保   |
|      | 工学部教授     | 淡野 照義  |
|      | 教養学部教授    | 木戸 真美  |
|      | 総務部次長     | 菅野 健   |
|      | 総務部総務課長補佐 | 斎藤 信二  |
|      | 総務部総務課係長  | 山本 隆夫  |
|      | 総務部総務課    | 藁科 明宏  |

東北学院大学広報誌『OUPANOS (ウーラノス)』  
に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

##### 本誌における個人情報及び 掲載記事の取り扱いについて

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。

発行日 平成18(2006)年2月20日

編 集 東北学院大学 広報誌編集委員会

発 行 東北学院大学

〒980-8511

仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030

30 URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

E-mail [tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

印 刷 (株)エイエビー

